

解説

## 東日本大震災復興状況視察報告会

# 災害前にできる「復興」がある



総会前に開かれた報告会でパネルディスカッション

**1 東日本大震災後**  
に建てられた、  
真新しい公営住宅、コ  
ミュニティ施設、防  
波堤……。スクリーン  
に映されたのは、昨年  
10月21日から22日の2  
日間にかけて、JIA  
長野県クラブが宮城県  
の被災地を視察した際  
に収めた写真だ。同会  
では総会に先立つ会員  
集会で「東日本大震災

## JIA長野県クラブ

復興状況視察報告会へ  
震災復興のまちづくり  
について考える~」を  
開催し、参加者全員で  
「JIA長野県クラブ  
として災害に対してど  
ういうことをやってい  
けばいいのか」を、視察  
を通して感じた印象と  
ともにディスカッション

暮らしを支えるために、  
なによりも住む場所の  
提供を急ぐことが必要  
だ。が、その結果として  
機能優先のまちづくり  
が進められ「その地に

人間関係と地域の人間  
関係は違う。合意形成  
のハードルは高く、全  
員が納得することは難  
しい。行政の苦労を感じ  
たし、評価したい」と  
しながらも「中央の視  
点だけで復興を進めて  
いる場所もあった」と  
いう感想や「まず住む  
ところが必要だし、行  
政には公平に進めると  
いう視点もある。ただ、  
コミュニティーが切れ  
てしまう心配はある」  
などの声があがつた。

「復興で住まいがないときに、まちづくり  
の話を持ち込むのはか  
なり難しい。家がなく  
て困つているときに『街  
並みを考えようよ』とい  
えるのか。ぐちゃぐ  
ちゃしたものを見た  
中で感じる」と話した  
のは、今年度から新代  
表となる荒井洋氏。だ  
からこそ、災害が起こ  
る前の正常な意識の  
うちにあるべきことが  
ある」と話すと、パネリ  
ストからも「地域でつ  
くった建築のなかに、  
立ち寄った人たちが

この日、代表を退任  
する山口康憲代表は  
「災害時の対応は建築  
士の活動の大きな柱の  
一つだ」とし、応急危険  
度判定や、建築5団体  
が昨年県と協定を結ん  
だ住宅相談などの活動  
などをあげつつ「マン  
パワーを必要とする活  
動には会員数の多くの  
JIAでは対応でき  
ない場合もある。しか  
しながらこそ、JIA  
ならではの『できるこ  
と』があるはず。災害が  
発生した際のことを想  
つながらる都市計画やま  
ちづくりを推進する『事  
前復興』が重要だ」と話  
した。

丸山氏は「JIAは復  
興直後の話だけでなく、  
もっと長いスパンで、  
まちづくりなどに関し  
てやれることがある」  
とまとめ、「長野も他人  
ごとではない。建築家  
という職能を生かし、  
災害が起きる前にでき  
ることを考えたい」と

**震災復興のまちづくりについて考える~**